NPO法人　みどりのゆび
会報　2025年　秋号

次の時代を築く一歩一歩を、
大切に踏みしめて

ご挨拶　事務局・ 伊藤 右学

地域の魅力を足で再発見
フットパスがくれた新しい視点

私がNPO法人みどりのゆびと出合ったのは、2023年6月に参加したフットパス「異国情緒の横浜山手と元町を歩く」でした。1980年代に何度も訪れた元町は、私にとって思い出深い場所です。久しぶりに歩いたその日、懐かしさだけでなく、歴史や建物の解説を聞きながら、参加者の皆さんと楽しく語らい歩いた一日は、忘れがたい体験となりました。フットパスの楽しさにすっかり魅了され、この会の活動にもっと関わってみたいといったのが、すべての始まりでした。

現在は、フットパスの企画運営、申込管理、ガイドマップの販売などを担当しています。活動で心がけているのは、ふれあいと楽しさ、　そして「歩くこと」で得られるわくわく感を大切にすることです。NPO法人みどりのゆびは、自然や歴史を楽しむウォーキング「フットパス」を中心に、緑地保全や農業支援、環境教育など、地域とつながる幅広い活動を展開しています。こうした取り組みは、フットパスという手法を通じて地域に住む人々が歩くことで交流し、まちを育てていく新しい「まちづくり」の形を生み出しています。その歩みは今、着実に全国へと広がりを見せています。

特に誇りに思っているのが、『まちだ・多摩丘陵フットパスマップ』です。町田市内35コースを紹介し、正確な5000分の1 地図と美しい俯瞰図を両面に掲載。諸先輩方が何度も現地を歩き、地形や景観を確認しながら作り上げたもので、日本初の本格的フットパスガイドとして高い完成度を誇ります。単なる案内にとどまらず、歩くこと自体を楽しめる構成が特徴です。

ＮＰＯ法人みどりのゆびのイベントでは、近現代の建築探訪、歴史ある地域の古道・遺跡・ストーリーなどをテーマに、これまでも志ある講師陣が案内するフットパスを数多く実践してきました。
参加される方々がみな楽しそうでおられるのは、やはりこの要素が複数含まれているからこそのことではないでしょうか。

2025年秋には、このマップのコースを再評価し、「まちだフットパスガイドツアー」を開催予定です。地域の魅力を再確認し、歩くことで得られる気づきや感動を、多くの人と共有したいと考えています。1990年代後半に始まったみどりのゆびの活動は、2002年のNPO法人化、2009年の日本フットパス協会設立へと発展し、今も着実に歩みを続けています。自らのまちを自らの足で歩き、見つめ直すことでまちへの愛着を育む――それが私たちの目指す「まちづくり」の原点です。これからも、次の時代を築く一歩一歩を、大切に踏みしめていきたいと思います。

フットパス専門家講座

東国（アヅマのくに）フットパス（その１）

［講師：古街道研究家　宮田 太郎］

相模川の「八景の棚」と、北条氏照娘・貞心尼が居た”環状集落＆月見の丘”

３月13日(木) 天気：晴　参加者：14名

「アヅ（ズ）マの国のフットパス」の一環として、かつて相模国と呼ばれてきたエリアのうち、相模川の流れと、その段丘崖から湧き出す無数の湧水が造り出した小河川沿いの面白さをぜひ紹介したいと、早春の相模川の段丘崖周辺を歩くコースを設定しました。

当日はＪＲ相模線の「下溝」駅に集合。近くの「八景の棚」の一角から雄大な相模川と丹沢の山々の眺めを楽しみ、「三段の滝（新旧二つ）」や「磯部の土塁」などを見ました。

三段の滝にて

相模川三段の滝近くの広場で（写真:田邊）

さらに道保川に沿う気持ちの良い遊歩道を北に進むと、そこには戦国時代の小田原北条氏関連の「環濠集落（館城）」が、段丘下の低地に存在しています。珍しい中世武士の暮らしの痕跡です。

道保川親水公園

道保川沿いの道を歩く

道保川の橋で一休み

この集落は、台地からの湧水が集まってできた道保川（どうほがわ）をUの字型に屈曲させて、防衛も兼ねた島状地形を形成したものです。

そこは昔から「下溝堀ノ内」と呼ばれ、小田原北条氏の第４代目・氏政の弟,氏照（八王子滝山城、八王子の城主）が、娘の貞心尼のために、安全な環濠のある館城を築いた場所です。

この方の夫は有名な山中大炊助という武将だったのですが先立たれ、一人娘も失い、尼となって当地で過ごしたようです。３０歳代後半で亡くなり、近くには菩提寺もあります。
興味深いのはお付きの武士たちの子孫がまだ環濠集落内や周辺に住んでおられることです。また、地元の人々から、今でも大変慕われているということです。

北条氏照は八王子のみならず、実は座間や海老名近くまで「由井領」という領地を持っていた可能性が高く、座間キャンプ辺りも「磯部城」という城の範囲ではないかと考えていますが、この辺りも「氏照領」だったことになります。

貞心尼さんを祀るお堂も環状集落の中にあり、参加者の皆さんと実際に堀の中を歩いてみました。

最後は段丘崖に今も残る古道を登って台地上のＧＩＯＮスタジアムに出ました。そこには、伝説のとおり、貞心尼さんが二十三夜の月見をしたり、丹沢に沈む夕陽を眺めて暦を体感したりしたという小さな山があり、外周のランニングコースの中の小さな丘として今も存在していることがわかります。

段丘崖の古道を登る

最後は横浜水道上にある遊歩道（トロッコ道の解説板あり）を、女子美大のバス停から各駅へと向かいながらの解散となりました。

（ 文と写真：宮田 太郎 ）

大きく蛇行している相模川と段丘崖（写真：田邊）

貞心尼ゆかりの遺蹟に、地元の愛を感じて

今回のフットパスは橋本駅に集合し、そのまま相模線に乗車。下溝からスタートとなりました。当日は天気も良く、歩きやすいコンディションでした。今回は相模原市下溝を中心に、前半は相模川沿いの「八景の棚」の景色を楽しみ、後半は北条氏照の娘ゆかりの地を巡りました。

まず崖の上から相模川を見渡し、そのまま川に向かって降りて行きました。相模川に沿ってしばらく歩き、「三段の滝」を見て青空の下軽いお昼をとりました。

後半は歴史の舞台に進みます。相模川につながる鳩川・道保川沿いをゆっくりと歩き、古道を所々確認しながら、貞心尼の居住していた「環状集落跡」をぐるりと一周しました。貞心尼とは、戦国時代に小田原を中心に関東を領有していた北条氏照の娘だそうで、私は今回初めて知りました。現在の地図でも、ここだけうっすらと、過去の集落の痕跡のようなものがわかるところでした。そこから古道を移動しながら、家族を亡くした貞心が月を眺めていた「月見の丘」と、その碑を確認しました。

相模原の下溝地区には貞心尼ゆかりの神社や宝物などが残っており、地元の方に今でも愛されていることがよくわかるフットパスでした。
最後に、宮田さんのフットパスでの資料は枚数もさることながら、興味深い手書きコメントが多く読み応えがあり、それだけでも楽しめました。ありがとうございました。

貞心尼ゆかりの神社

宮田太郎先生

（ 文と写真：太田 義博 ）

フットパス専門家講座

東国（アヅマのくに）フットパス（その２）

［ 講師：古街道研究家 宮田 太郎 ］

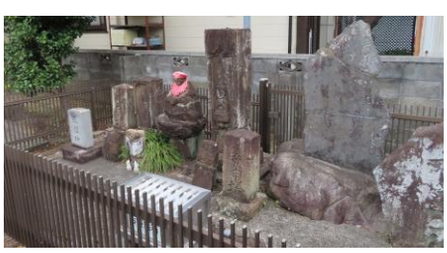
奥相模の縄文大集落をフットパス（縄文ロードと川尻遺跡編）

4月25日(金) 天気：晴　参加者：18名

テーマは、相模野の最奥部に位置する相模原市大島、川尻地区を「奥相模野」地域としてとらえ、そこに今も残る直線的な古街道が、実はおよそ数千年前の縄文時代に、多摩・町田と諏訪湖地方の高原地帯や八ヶ岳方面とを結びあった交流ルート＝昨年黒曜石ロードだった？！――という壮大な歴史ロマンを胸に歩きました。

２千500年～６千年前の縄文時代に、長野県の高原地帯の山の民と、相模野・多摩丘陵・武蔵野の人々が、親戚のような交流を数千年も続けてきたなんて、現代ではなかなか想像できないことですが、このフットパスはそんなことを実感させてくれる小さな旅になったものと思います。

当日は暑さも予想されたため午後だけの開催とし、正午にJR橋本駅のミウィ前に集合。バスに乗って10数分ほどで下車した二本松の「八幡神社前」では、昭和40年の津久井湖ダム完成に先立って、昭和30年台後半にここへ移り住んだ約180世帯の集落（湖底に沈んだ荒川村などから神社や石仏をここに移した）であることを知りました。



八幡神社の石仏群
（写真:田邊）

その先は、旧津久井郡城山町と相模原市の境界線（古街道）に沿って段丘崖の森の中を下り、「古街道のゴールデンクロス」にあたるという地点を確認。

段丘崖の森の中を下る

その先では「津久井城跡」へと真っ直ぐに続く謎の古街道＝縄文ロードをたどりました。

津久井城跡へ真っ直ぐに続く縄文ロード

オアシスのような大型スーパーで休憩後、「川尻中村遺跡」の跡地では、圧倒される量の出土物などを資料で確認。「新小倉橋」からの雄大な眺めを見たときは、相模川の川風が渡り、とても清清しい気持ちになりました。

長竹川尻線の上から、新小倉橋、城山と圏央道を見渡す

新小倉橋からの雄大な眺め
相模川の小倉橋とリニア新幹線工事中の橋

橋を渡り対岸の「原東遺跡」を確認し、橋を戻って「川尻石器時代遺跡（国指定）」を探索。そこには石敷きの住居址が復元されており、また目前の「宝ヶ峰（津久井城跡）」の山頂には、冬至の太陽が沈むことも知りました。 これらの濃厚な縄文遺跡群は、まさに山脈を越えて黒曜石やヒスイ石を運んで来る八ヶ岳の縄文人たちが、往き帰りに休憩したり滞在していたベースキャンプではなかったかと想像させてくれます。

川尻石器時代遺跡の復元された石敷き住居址を観察

普段はあまり訪ねることもなく、観光地でもないこのエリアですが、まだまだ自然が豊富であり、遠い我々の祖先の逞しき暮らしが見えてくるようで、貴重な時間になったと思います。

（ 文と写真：宮田 太郎）

新小倉橋より相模川の上流、神奈川県最古（昭和18年）の津久井発電所（写真：田邊）

国指定史跡　川尻石器時代跡（写真：田邊）

アズマのくにフットパスに参加して

土日が詰まっている私達にとってウイークデー開催のこの FP は願ってもなく、おかげで久しぶりに参加できました。それに数年前まで歩くのは体力維持が目的でしたが、最近は加えて歴史等の見聞が得られる行事に魅力を感じており、今回はまさにそういう企画でした。

川尻や小倉橋周辺は、以前、ゴルフや、宮ケ瀬ダムおよび丹沢の裏山などへ遊びに行くときに頻繁に通った所ですが、そこにこれほど大規模な遺跡群があることはまったく知りませんでした。

新小倉橋が開通した2004年以前は、相模川の向こう側へ行く場合、車は狭い(旧)小倉橋を対向車両がないことを確認して通行する、つまり交互通行のため時間がかかり、ここを通らなければ5～６㎞下流の高田橋まで迂回するしかなく、すごく不便な所だと感じていました。

その場所が、縄文時代には既に大集落があって多くの人が住んでいただろうこと、その後も黒曜石の運搬経路であった時代もあり、さらに相模の国や武蔵の国などと甲州方面を結ぶ主要な交通路の一つであっただろうこと等を知りました。黒曜石と聞き最初は何故かと思いましたが、刃物道具として使われた時代には重要な交易物だったのでしょうね。

現代のような通信手段・動力・機械等がなかった時代の人々は、どんな生活をしていたのだろうか？…住居や渡河手段等をどのようにして整備したのだろうか？…いろいろ想像するだけでロマンを感じます。

途中休憩した場所が、その遺跡群のある近くで、スーパーアルプスなどの店が入っているコピオ相模原インター店というモールでした。そのモールに立ち寄ったのも私達にとっては初めてでした。宮田先生の詳細な資料と、広く深くとてもわかりやすいご説明で、大変面白く勉強になった一日でした。

（文：伊藤 英俊、民江）

川尻石器時代遺跡に参加者のみなさまと（写真：田邊）

他のまちのフットパスをみてみよう

あしかがフラワーパークと足利学校・鑁阿寺

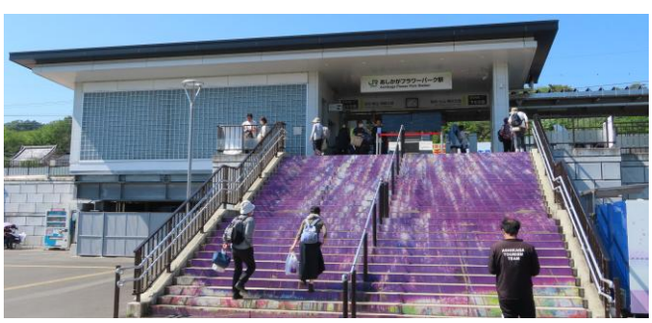
［講師：みどりのゆび 小林 道正］

満開の“大藤”を堪能しました

4 月30日(水) 天気：晴　参加者：11名

あしかがフラワーパーク遠景（写真：小林）

足利市は関東平野の北端、渡良瀬川の清流や緑豊かな山々に囲まれ、豊かな自然と歴史•文化が調和した街です。大藤で有名な「あしかがフラワーパーク」では四季折々の美しい花々が咲き誇り、日本最古の学校である「足利学校」や、室町幕府を開いた足利氏ゆかりの「鑁阿寺（ばんなじ）」など歴史的な史跡が数多く残っています。



JRあしかがフラワーパーク駅

足利市へのアクセスは自家用車が便利ですが、駐車場周辺がたいへんな渋滞になります。シーズン中には直通列車が東京、新宿、八王子、神奈川などから運行されることもあります。今回は新宿駅を起点として、往路はJR湘南新宿ラインとJR両毛線を、復路は東武伊勢崎線とJR湘南新宿ラインを利用しました。

あしかがフラワーパーク・大藤棚

あしかがフラワーパーク・白藤

大藤は樹齢160年を超えると言われており、花房の長さは1.8mにもなるそうです。風に吹かれながら雅で甘い香りを漂わせていました。園内の歩道は身動きがとれないほどの混雑でしたが、色とりどりの藤の花に感動しました。

足利学校・外濠前

JR両毛線を一駅乗り、足利学校へ移動しました。この足利学校は「日本国最古の学校」として足利市民の「心の拠り所」となっています。創建は諸説ありますが、確かな事実としては1439年に関東管領上杉憲実が再興したと伝えられています。16世紀半ばにはフランシスコ•ザビエルによって「日本国中最も大にして、最も有名な坂東の大学」と世界に紹介されました。施設は孔子廟、学問所、書物（国宝）を保存する図書館などがあります。最近の話題はゲーム「刀剣乱舞」で有名になった「山姥切国広」という日本刀です。堀川国広が安土桃山時代にここ足利学校で鍛刀したと伝えられています。今年になって個人所蔵だったものを足利市が約3億円で購入しました。一般公開が楽しみです。

足利学校・孔子廟前

次は足利学校から徒歩で5分の鑁阿寺（ばんなじ）です。足利尊氏の父貞氏が建立したと伝わります。鎌倉時代に足利氏の館として築かれた真言宗大日派の本山です。本尊は大日如来で、本堂は国宝に指定され、市民から「大日様」と呼ばれ親しまれています。

鑁阿寺・仁王門前

鑁阿寺・本堂（国宝）前

最後に街の中心部を流れる渡良瀬川を渡って、東武伊勢崎線の足利市駅まで歩きました。老朽化した中橋を歩行者専用の橋として補強し保存するために、掛け替え工事をしています。森高千里の歌で有名な渡良瀬橋は川の上流方向にある隣の橋です。

渡良瀬川・中橋の架け替えの様子

（文：小林 道正　写真：田邊 博仁）

“大藤”の美しさ、雄大さに感動

新緑が目に眩しい4月30日、新宿の喧騒を後に、湘南新宿ラインに揺られること約2時間。多くの観光客と一緒に「あしかがフラワーパーク駅」に降り立つと、期待に胸が膨らみました。

フラワーパークの門をくぐると、 すぐに目に飛び込んできたのは、息をのむほどに美しい大藤の姿。樹齢百六十年を超えるというその巨木は、頭上いっぱいに紫色の花房を広げ、まるで 壮麗な滝が流れ落ちるようでした。１本の木からこれほどの 美しさが生まれるのかと、自然の雄大さに感動しました。

この奇跡は日本初の女性樹木医、塚本こなみ氏によってなされ、今こうして私たちの目を楽しませてくれているのです。

藤棚の下を歩けば、 頭上には紫・白など、色とりどりの花房が揺れ、甘い香りに包まれます。藤の花以外にも色鮮やかなツツジが波のように咲き誇っていました。

昼食後、歴史的な薫り漂う「足利学校」へと向かいました。いくつかの資料が展示され、日本の最初の学校がここに築かれたことを物語っています。特に心に残ったのは、当時の学生たちが真剣に学んでいた姿を想像した時でした。

最後、私たちは国宝である「鑁阿寺」に向かいました。ここも歴史的な重みのある建築美で、足利の地の歴史の深さを強く感じました。

大藤棚

つつじと藤棚

（文と写真：太田 義博）

他のまちのフットパスをみてみよう

町田・野津田の里山にある「浮輪寮」と野津田公園フットパス

［講師：みどりのゆび 田邊 博仁］

古民家を再生した浮輪寮を訪問 野津田の里山を歩く

5月10日(土) 天気：小雨・曇　参加者：17名

本日のFP（フットパス）の目玉は、「浮輪寮」です。

「野津田車庫」から、野津田の里山の小径を登ります。途中にある「浮輪寮」へのいくつかの案内板は手作りで、「ゆっくり～浮輪寮」と書かれ、浮輪寮のご主人の暖かい思いやりが伝わってきます。丘(104m)の上の「農村伝道神学校」に出て、そのキャンパスに入ると、大きなスズカケの巨木の右側に数寄屋造りの浮輪寮が見えてきました。

「ゆっくり~浮輪寮」の小径

浮輪寮と水鏡の池

「浮輪寮」の名は、1954(昭和31)年の青函連絡船洞爺丸事故で、日本人の若者に自分の救命胴衣を与えて亡くなった農村伝道神学校の創立者、カナダ人宣教師アルフレッドラッセル・ストーン牧師にちなんでいます。

今日は「浮輪寮」内で、建築家丸谷博男先生から、ビデオを使って、浮輪寮再生にまつわるお話を伺いました。素敵なトークとまさかのピアノ演奏にビックリ、そしてご自慢の体に優しい手作りの「ホワイトカレー」をいただきました。

廊下越しに解放された窓からの庭、雨に濡れた森、水が張った池も素敵でした。

数寄屋造りの天井と廊下と外の緑

建築家丸谷博男氏

「浮輪寮」は2022年に再生され、里山の環境を学ぶ講座、古典落語、華道、茶道、上方舞、雅楽、音楽ライブ、朗読、ワークショップなど様々な目的に活用されています。

「浮輪寮」を後に、午後からは野津田の里山を歩きます。FPを始めた頃(約15年前）、このようなマップを作って楽しんで歩いていました。久しぶりに、作ってみました。

野津田の里山歩きフットパスマップ

このマップに従い、①野津田車庫から～③浮輪寮～⑤小野路一里塚～⑥野津田公園～⑨国内最大級12mの鎌倉古道発掘現場～⑩森のレストラン「俊宣茶房」をぐるり～と回るFPのご案内をしました。

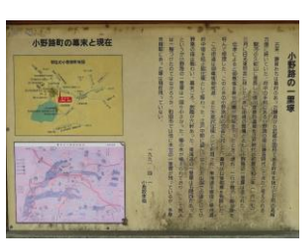
野津田の里山の変遷（明治から昭和、平成、令和）を調べてみると、農村伝道神学校が野津田の広大な山林を購入後（1978（昭和33）年）から、各種施設ができています。

神学校の丘から歩き始めると、「都立町田の丘学園」、「都立野津田高校」と続き、さらに歩くと「きこえの学校　ライシャワー学園」(「聾話学校」から2025/4 学校名変更）、「まちだ丘の上病院」(名誉院長が鎌田實氏。鎌田氏の「地域を支える医療」が病院の理念）と各種の施設・学校・病院が集まっています。

「ライシャワー学園」

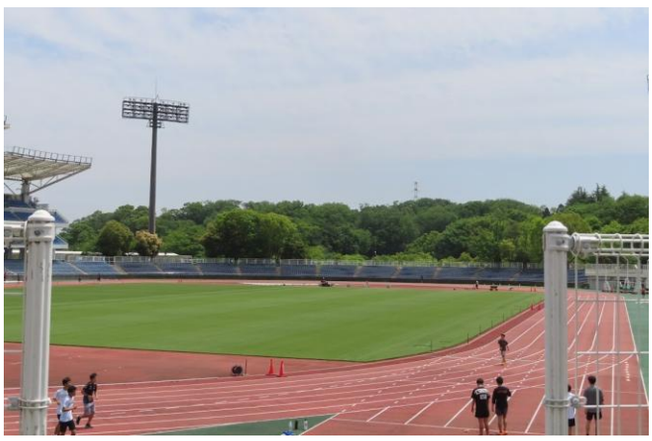
「まちだ丘の上病院」

小野路へ向かう道を進むと、鎌倉時代からの古道が。江戸時代、家康の遺骨が久能山から日光東照宮に移された時(1617年）の御尊櫃御成道には、この時「小野路一里塚」が造られ、両脇にエノキの木が植えられました。その後、大山道として賑わいました。



小野路一里塚の案内板

野津田公園に入ります。敷地面積は約121,000坪（東京ドームの約34.8個分相当）と広大な公園です。1990年に陸上競技場として開園。2020年には、町田GIONスタジアムが町田ゼルビアのホームグラウンドとして、2022年には、ばら園がここに移設されました。



野津田GIONスタジアム

「湿性植物園」へ入ります。公園調整池内に、1919年開園。現在はスケートパーク計画が進行中。また、野球場の近くには「国内最大級12m幅の鎌倉古道」の発掘現場がありますが、発掘後の道路遺構は埋め戻され、公園の下に保存されています。

公園の続きの森に囲まれ閑静なレストラン「俊宣茶房」（しゅんせんさぼう）をご案内しました。農村伝道神学校の創始者であるストーン牧師の晩年の住居を改修したお店のようです。

閑静な森の中のレストラン「俊宣茶房」（2014,12）

森の中の小径を歩いて、野津田公園の「上の原ススキ草地」へ出ました。ここから、「華厳坂の鎌倉古道」を経て「野津田車庫」へ戻り、解散しました。

＊下記のGoogleフォトのアルバムに全体の写真を掲載しています。下記のURLにてご覧いただけます。
【みどりのゆびFP「町田・野津田の里山にある「浮輪寮」と野津田公園フットパス(2025/5/10)】
https://photos.app.goo.gl/LNMqsJLUmhJkdSwq5

（文と写真：田邊 博仁）

浮輪寮を訪ねての感想

◆ 丸谷先生のお話から二つ、感想。
①朽ち果てているとも見られる木造建築を、伝統技法も生かしながらここまで再生されたことに感銘を受けました。特に、自然から学んだ室内環境の創出は素晴らしい。浮輪寮は周辺の木々のたたずまい（雨模様が一段と美しく）ともあいまって、独特のちからを見る者に感じさせますね。

②浮輪寮や農村伝導神学校の歴史を伺うと、戦争が終わった後しばらくの時代の「熱」を思い出しました。ぼく自身の小学校（井の頭の明星学園）の時代です。子どもごころにも、自由・溌剌の時代でした。今思えば、民主主義への期待に溢れていた時代と言うのが可能かも。
そして今回のフットパスを企画された田邊さんの精力的で周到な準備作業には感謝あるのみ。ありがとうございました。たくさんの素晴らしい写真にもお礼。（高見澤 邦郎）

◆ ＮＰＯみどりのゆびのまち歩き『町田・野津田の里山にある「浮輪寮」と野津田公園フットパス』で、浮輪寮を訪ねました。
農村伝道神学校の学生寮として使われていた建物を、丸谷博男氏の改修設計により、見事に蘇った交流施設。丸谷さんから浮輪寮の謂れから出来上がるまでのお話を聞かせていただきました。本物のあるいは本気のエネルギーを費やして作られた建物の、凄みのようなものを感じました。
（浅黄 美彦）

◆ 昨日はありがとうございました。
雨が池に水紋となり数寄屋造りの建物の中ゆるりとした灯り、丸谷先生の講演とピアノ演奏、まるで異次元の世界でした。雨の中もなかなか良いですね。素晴らしい一日でした。（櫻田 美知子）

数寄屋造りの古民家を再生した「浮輪寮」をバックに。ご自慢の手作りの「水鏡」に雨水がたまり、映し出される丸谷先生とみなさま

他のまちのフットパスをみてみよう

鷺宮フットパス　阿佐ヶ谷から鷺宮へ

［講師：みどりのゆび 浅黄 美彦
山本 愛子　冨沢 みちこ］

戦前からのよき街づくりの姿を体感

5月23日(金)　天気：晴　参加者：17名

昨秋歩いた「阿佐ヶ谷～西永福町」の続編です。今回は阿佐ヶ谷駅から北へ、西武新宿線の鷺宮駅まで歩きました。新たな取り組みとして「中野たてもの応援団」で活動している鷺宮在住のお二人にサポートしていただきました。前回同様に古道、神社、川（暗渠）を辿りながら、古民家、戦前の郊外住宅地、公団住宅や鷺宮ゆかりの著名人の痕跡も訪ねてみました。

阿佐ヶ谷駅に集合、駅に近い「阿佐ヶ谷神明宮」で全体のコース説明を行い桃園川暗渠へ。暗渠とは、川や水路など水の流れに蓋をしたものです。その佇まい（景観）、うつろい（暗渠となった経過）、つながり（経路）を楽しむという「暗渠」の基礎知識を語りながら、迷路のような細道を北へ進むと「お伊勢の森児童公園」が見えてきます。

桃園川暗渠

お伊勢の森児童公園から杉森中学校にかけての一帯はかつて「お伊勢の森」と呼ばれ、阿佐ヶ谷神明宮の旧社地であった、かつての深い森のかすかな名残りの場所としてこの児童公園が整備されているようです。

「鷺宮神明宮」、「相澤家の旧居」跡、旧道そして「桃園川暗渠」を歩くことで、市街化する前の近郊農村としての旧阿佐ヶ谷村の様子を想像してもらいました。

お伊勢の森児童公園

住宅地の細道を東に少し歩くと「Aさんの庭」（旧近藤さんの家）、昭和初期に建てられた数軒の住宅が、生け垣をつらねて今も残る一角の中ほどに、庭木に埋もれるように、ひっそりとした佇まいを見せていたという。宮崎駿監督が、トトロが住みそうな面影の家々を訪ねた6軒のうちの一つです。

Aさんの庭ができるまでもドラマのようで、不審火で焼けてしまった戦前の住宅はありません。しかし宮崎駿監督は、家の土台や井戸、庭などを残し、家を思い出させる赤瓦のトイレを盛り込んだ公園を提案し、これが承認されて２０１０年に「Aさんの庭」と名付け開園したそうです。Aさんとはここを訪れるすべての人のこと。みんなが自分の庭のようにここを大事にしてとの思いが込められている場所は心地よく、ここで昼食をいただきました。

Aさんの庭

早稲田通りを横断して北へ少し歩くと、２軒目のトトロの住む家、中野区白鷺の「Tさんの家」跡があります。ケヤキ並木のある集落の道沿いにあったTさんの家も、残念ながら解体されてしまいましたが、２０１２年、この住宅のお別れの会に出席したという案内人のお二人のお話を聞きながら、その家の面影は感じることができました。

ケヤキ並木にある白鷺のTさんの家跡

次に訪ねた白鷺の茅葺屋根の旧家「細田家」は、幕末に移築された建物とのこと。その由来からこの建物の保存維持活動について、地元の山本さん、冨沢さんから解説をいただきました。広大な細田家の敷地の一部は、中杉通りの拡幅予定地だそうです。道路工事がなかなか進まず、時が止まったようなお屋敷となっていました。

細田家にて　集合写真

細田家を後にして、日本住宅公団の実験的なテラスハウスで作家阿川弘之・佐和子一家も住んでいた「鷺宮住宅」、将棋の「内藤九段邸」、「坪井栄の自邸」跡、「遠藤新設計の住宅」など、地元民ならではの鷺宮の見所を案内していただきました。最後に美しくよく庭が管理された「福蔵院」を訪ね、ちょうどいらした、お二人の同級生でもある住職の奥様にお話を聞き、解散としました。

福蔵院にて

解散後に、地元の案内人のご配慮で、喫茶店「エルビエント」を貸し切っていただきましたので、美味しい珈琲をいただきながら歓談しました。

（文と写真：浅黄 美彦）

喫茶店エルビエントで

祖父・三岸好太郎の絵に今も生き続ける景色

阿佐ヶ谷から早稲田通りを少し進むと、中野区と杉並区の境界にたどり着きます。その境界付近には、築 150 年とされる中野区最後の茅葺き民家が残っています。屋根にはトタンがかぶせられていますが、長年の重みにより傾きが進んでいる状況です。

この貴重な建物を守ろうと、「中野たてもの応援団」は毎月第 2 日曜日の午後に集まり、 約 20 名で広大な敷地（約 1000 坪）の清掃活動を続けています。また、伝統技法研究会という建築家の団体に依頼し、中野区文化財課が古い建物の悉皆調査を行いました。700 件以上の建物を調査し、記録を残したうえで報告書も作成しました。 その中には茅葺き民家や鷺ノ宮住宅も含まれていますが、残念ながら計画道路の建設 に伴い、鷺宮八幡神社社務所とともに取り壊される可能性が高い状況です。

私の祖父は三岸好太郎、祖母は三岸節子で、ともに画家です。祖父がデザインした三岸アトリエ（昭和 9 年築）も調査の対象となりました。祖父は「鷺ノ宮風景」という 題名の油彩画を残しています。"祖父の油彩画『鷺ノ宮風景』には、かつての妙正寺川 の穏やかな姿が描かれており、失われつつある景色がキャンバスの中で生き続けています。

（文：山本 愛子）

ご参考：「鷺ノ宮風景」三岸好太郎作
・下記に文化財遺産データーベース（文化遺産オンライン）からご覧いただけます。
https://bunka.nii.ac.jp/db/heritages/detail/233351

（みどりのゆび　田邊博仁）

フットパス専門家講座

泉の森の植物を訪ねて

［講師：日本植物友の会会長　山田 隆彦］

気軽に散策して、お目当ての植物を探す

6月8日(日)　天気：曇 参加者：13名

梅雨前の「泉の森」を訪ねた。小田急線の大和駅から歩け、気軽に散策できるのでこの地にはよく訪ねた。6月はキツリフネが咲きだす頃で、緑の林内にちらほらと咲きはじめていた。この稿では4種をとりあげようと思う。

ナガエミクリ　ガマ科　　［長柄実栗］

水中で葉を流れに任せている植物、ナガエミクリといい、神奈川県では2か所でしか標本は採集されていない。花期以外の葉は水中にあり、沈水状態で過ごしている。本州～九州に分布しているが、水の流れていないところでは、ほとんど見られない。花期は6～9月、この地のものは、例年なら花穂を伸ばし咲きはじめているのであるが、今年は遅れている。ミクリ科という独立した科であったが、新しいAPG分類(DNAの分析にもとづく分類)ではガマ科となり、ミクリ科はなくなった。

ナガエミクリ

クマノミズキ　ミズキ科　［熊野水木］

ちょうど花盛りであった。白くこんもりと花がかたまりでつき、ミズキとそっくりであるが、花期が違う。クマノミズキはミズキより約１カ月遅く6～7月に咲く。名前は紀州熊野に産するミズキという意味。ミズキとの決定的な違いは、クマノミズキの葉は対生であるが、ミズキは互生である。また冬芽の形が違う。ミズキは鱗のような小さなかたい片に包まれた長い卵形であるが、クマノミズキは筆先のような形をしていて裸芽(芽鱗で覆われていない)である。

クマノミズキ

キツリフネ　ツリフネソウ科　［黄吊舟］

名前のとおり、花は黄色で姿はぶら下がった舟に似ている。学名(世界共通の名前)はインパチエンス･ノリタンゲレ（Impatiens noli-tangere）といい、属名のインパチエンスは「耐えられない」、種形容語のノリタンゲレは「触るな」という意味で、熟した果実を触れると突然はじけることによる。この辺りには、暗紅紫色のツリフネソウも分布している。花の色ですぐに分かる。それ以外にツリフネソウは葉の上に咲き、距（花の後ろにつく長い管）が渦巻状に巻いているが、キツリフネは葉の下に咲き、距は巻かないという違いがある。葉の形も違う。

キツリフネ

ノハカタカラクサ　ツユクサ科　［野博多唐草］

南アメリカ原産の帰化植物で、昭和初期に鑑賞用として葉に白い斑の入ったものが導入された。それが逃げ出し斑のないものが猛烈に増え、環境省の「要注意外来植物」に指定されている。この長い名前は、園芸種の葉の縞模様が博多織に似ていることから野に生える博多唐草と名付けられた。最近は別名のトキワツユクサの名を使う人が多くなった。

ノハカタカラクサ

種々の草花を楽しみながら、相鉄本線の相模大塚駅で解散した。

（文と写真：山田 隆彦）

泉の森で植生を観察

メタセコイアに、恐竜のいる白亜紀を想う

植物に殆ど知識のない者として初めて大和を訪ね、泉の森観察会に参加させていただきました。山田先生のご説明から私が想像した事を拾い出してみます。

大和駅のプロムナードに真直ぐ伸びた並木があり、先生からメタセコイアと説明されました。メタセコイアは恐竜が栄えた白亜紀に出現した植物です。この並木が成長して30m程に高くなり恐竜が大和のメタセコイアの森を闊歩する風景を想像し、現代と白亜紀が錯綜したロマンを感じました。

次に植物の繁殖の工夫に関して。例えばツタのように伸びていく植物の場合、葉が茎から左右交互に周期的に出て、つるも規則正しく左右交互に出ています。太陽の光を満遍なく捉え且つ周りの植物等にうまく巻き付く為だそうです。またシダ植物の場合、仲間を増やすため、葉の裏に丸い小さな粒の集まりが並んでいます。時期が来ると粒がはじけて胞子が風に飛ばされ、地面に落ち繁殖するのだそうです。

上述の”花が咲かないシダ植物“は風が胞子を運んでくれるようです。一方、花が咲く植物には、風の力や、蜂、蝶、野鳥などが蜜を吸いに来て花粉を遠くまで運んでくれます。素人考えですが、後者の方が花粉の運搬量が多く広範囲で繁殖するので、花が咲かないシダ植物は羨ましがっているかもしれません。

ご説明の中に植物や人類の起源に関係する話も出て来ました。その中で、現存する被子植物でもっとも古いアンボレラという植物は、1億3000万年前の前期白亜紀に出現したと推定されているそうです。ここで恐竜の再登場です。植物の名前は中々頭に入って来なかったですが、ロマンをいただき有難うございます。

（文と写真：小田 直樹）

現実のメタセコイアの並木に恐竜を加えると

他のまちのフットパスをみてみよう

奥浅草から吉原への山谷堀と日本堤を歩く

［講師：みどりのゆび 浅黄 美彦・神谷 由紀子］

大河ドラマ「べらぼう」の舞台は今

6月22日(日)　天気：晴　参加者：12名

NHK大河ドラマ「べらぼう」の舞台である吉原とその道筋、山谷堀と日本堤を歩いてみようというものです。

「二天門」に10時集合という渋い選択をしてみました。戦災にあった「浅草寺」は、本堂・門・塔などほとんどがRC（鉄筋コンクリート）の建築ですが、二天門と「浅草神社」本殿は、江戸時代の建物です。江戸の建物を眺めながら、まずは浅草寺裏にある「浅草寺支院・集合住宅（1932年築）」前を通り、浅草神社の裏側にある「被官稲荷社」へ。幕末、新門辰五郎が勧請したという渋い稲荷社でした。

二天門

被官稲荷社

言問通りを渡り芝居町猿若町を通り、「待乳山昇天」へ。旧芝居町はかつての芝居小屋があった碑のみで、その雰囲気を感じることはできませんが、江戸歌舞伎の始祖・猿若勘三郎の名からつけられた。江戸末期の芝居町「猿若町」を歩くことだけでも、楽しいような気がしてきます。

隅田川方向に少し進むと10mほどの高台が待乳山昇天。隣接する公園内には、ここで生まれた作家・池波正太郎の碑がある。「大川の水と待乳山昇天宮は、私のふるさとのようなものだ」と記している。

待乳山昇天を北へ抜けると、今回のフットパスのテーマのひとつ「山谷堀と日本堤を歩く」の入口です。山谷堀は昭和50年代に暗渠となり、その上部を台東区が公園として整備しています。

幅9m、長さ750m、緑道とせず公園として整備しているのも面白い。

「今戸橋」、「吉野橋」、「山谷堀橋跡」など通り、途中「今戸神社」にも立ち寄り小休止しながら、「山谷堀公園」にある歴史解説板を読みながら吉原へ向かいました。

山谷堀公園

今戸神社

日本堤通りに出て「見返り柳」のところを左折、S字の五十間道を下ると「吉原大門跡」に辿り着きます。極楽とこの世の間が五十間という川柳のとおり、遊郭という特殊な世界との境界です。

この通りの左側に蔦屋重三郎は書店を開き、吉原のガイドブック『吉原細見』を売って名をあげたという。大門脇にあった「松葉屋」はすでにマンションとなっており、吉原の痕跡、おはぐろどぶの石垣、遊郭「大文字屋」跡の「吉原公園」、「吉原神社」、わずかに残る吉原カフェ建築など、吉原の点在するスポットを巡ってきました。

吉原神社　集合写真

吉原カフェ建築

吉原の町中華や喫茶店に分かれて昼食をとり、「一葉記念館」へ。木造のアパートのような旧一葉記念館も趣がありましたが、２００６年に建替えられた記念館は、東京都現代美術館の設計者、柳澤孝彦氏の手によるものです。一昨年の三ノ輪フットパスでも訪ねておりますので、近くのあんみつ屋さん組と一葉記念館組に分かれ、休憩も兼ねて各々赴くままにのんびりとした時を過ごしました。

いよいよ最後の目的地、三ノ輪の「浄閑寺」へ。“投込寺”とも呼ばれ、花又花酔の川柳「生まれては苦界　死しては浄閑寺」と詠まれた碑が切ない。新吉原供養塔の向かい側には、遊女の暗く悲しい生涯に思いをはせて、永井荷風が詩碑を残している。文学に詳しい方に解説していただき、より深く味わうことができました。また、参加者の一人が詩碑の建立の日が６月２２日と気づき、当日のこの場所を訪ねた奇遇で盛り上がったところで解散となりました。

（文と写真：浅黄 美彦）

蔦重の「耕書堂」を模した観光案内所も活気づいて

私は、吉原詣は二回目だった。前回は地下鉄三ノ輪から「目黄不動尊」にお参りし、吉原の方へ向かった。今回は浅草寺の二天門に集合して歩く。二天門は浅草神社の近くにあり、雷門辺りより人が少ないので覚えておきたい所だ。

厳かで風格のある「今戸神社」は招き猫発祥の地で、入口には大きな招き猫が二体飾られている。また縁結びなどのご利益があるとのことで、絵馬にも招き猫が二体描かれている。 木陰で自己紹介をしたり、熱中症にならないように対策をとる。

「 山谷堀公園」は隅田川に近いからか風が通り心地よかった。公園内にミニサイズの猪牙舟（ちょきぶね）や今戸焼の招き猫などがオブジェのように並べられていた。地元の歴史や産業の一部が分かりやすくて「いいね！」の声が多かった。

「地方橋」と書いて「じかたはし」 。ここを曲がって更に広い通りまで歩いて行くと、遠くに小さな緑が見えた。「見返りの柳」？

衣紋坂の先には、某局のテレビドラマとタイアップして蔦屋重三郎の「耕書堂」を模した観光案内所ができていた。若い人も増えていて、以前より活気を感じた。

「 浄閑寺」にお参りしてから地下鉄三ノ輪駅にて解散する。私は少し歩いて、念願の都電荒川線に乗り帰路につく。

電車が動き出すときの合図の「チンチン」の音を懐かしく聞いていた。

（文：新納 清子）

木陰で一休み（写真:神谷）

他のまちのフットパスをみてみよう

小湊鉄道と養老渓谷・チバニアン

［講師：みどりのゆび 小林 道正］

トロッコ列車で緑のトンネルを走り抜け チバニアンでタイムトラベル

7月5日(土) 天気：晴　参加者：８名

私たちが乗った「トロッコ観光列車」は養老川に沿って、水田の中を走り、自動車道路と並んで走り、雑草と樹木の中をゆっくりトコトコユラユラ、時々ガタンゴトンと車体を軋ませながら進みます。沿道の住民の方や自動車の中の人たちが手を振ってくれます。みんな笑顔になります。

トロッコ観光列車（小湊鉄道HPより転載）

小湊鉄道は房総半島の里山風景の中を走る姿が人気です。大正から昭和初期にかけて建設され全線単線非電化という完成当時の姿を色濃く残しています。レトロな車両や駅舎が現役で活躍していて映画やドラマのロケ地としても選ばれ、多くの鉄道ファンや観光客を魅了しています。

小湊鉄道・途中駅でお買い物

目指す「チバニアン」は養老渓谷にあります。「チバニアン」とは地質年代に命名された名前で、今から77万4千年前から12万9千年前の地質時代名です。2020年1月に日本の地名が初めて地質年代の名前として国際地質科学連合で認められたということで話題になり、有名になりました。

地層の露頭（チバニアンBCのHPより転載）

なぜ「チバニアン」が認定されたのでしょうか？その理由は、養老渓谷の崖には観察がしやすく保存状態がとても良い「上総層群（かずさそうぐん）」が露出していたからです。その地層の中には
①地球磁場が逆転していた記録が明瞭に残っている。
②白尾火山灰層という目印になる地層がある。
③有孔虫や花粉などの保存良好な化石が豊富に含まれている。
という好条件が揃っていました。

今回は「チバニアン」の露頭を見学する予定でしたが、残念なことに周辺整備の工事のために立入禁止で近づくことができませんでした。１ヶ月前の突然の発表だったために本会の対応ができませんでした。ご迷惑をおかけしましたが、もう一度来年企画したいと考えています。

「チバニアン」の時代に堆積した上総層群は、私たちが住む東京•神奈川の地下にも続いていて基盤岩となっていることを考えると、少し身近な存在に思えてきます。

永昌寺トンネル内の地層観察

「チバニアン」のビジターセンターではボランティアの方が親切でした。皆さんが興味をもたれたことは「地磁気逆転現象」についてだったようです。「松山逆転極期」とは発見者の京都帝国大学松山基範教授の名前が使われています。

チバニアンビジターセンター

養老渓谷周辺の崖は比較的柔らかい岩石で、ツルハシやスコップでも削ったり穴を開けたりすることができるので、地域では江戸時代の頃から素掘りでトンネルを掘って利用していました。入り口の形が将棋の駒のような五角形をしているものがありました。

昼食はチバニアンビジターセンター近くの「このいかふぇ」で美味しいビーフシチューをいただきました。

「このいかふぇ」でランチ

（文と写真：小林 道正）

チバニアンの露頭を、来年こそこの目で

蒸し暑い夏の朝、新宿駅から五井駅へまず向かいました。ここから、フットパスの本番が始まります。小湊鐵道の観光列車「房総里山トロッコ」に乗り込み、私たちは房総半島の中央を流れる養老川に沿って、チバニアンの最寄の月崎駅がある里山を目指しました。どこかクラシカルでありながらも景色が見やすく工夫された車両は、レトロなDB4型機関車にガタゴト引かれ、緑の田園風景の中をゆっくりと走ります。私たちの列車を見かけると地元の方が手を振ってくれてほっこりしました。

やがて列車は月崎駅に到着。そこから少し歩き、素掘りの永昌寺トンネルを見学し、ポツンと１軒だけのカフェでお昼をとりました。ここではビーフシチューをいただきました。とろけるような牛肉と、野菜の甘みが溶け合った濃厚な味わいに、全員が思わず笑顔に。満腹になってチバニアンビジターセンターに向かいました。館内でセンターの方から解説をお聞きした後、現在は工事のため残念ながら立ち入り禁止になっているチバニアンの手前まで案内をしていただきました。ぜひ次回は、工事も終わったチバニアンの現場と隈研吾によるガイダンス施設をみんなで訪れたいねと意見が一致しました。

車内にて

古民家風の「このいかふぇ」

（文と写真：太田 義博）

農と緑の管理

竹林と緑地の管理活動が生むもの

町田市には現在、約800か所の公園や緑地があり、四季折々の自然が私たちの暮らしを彩っています。これらの緑地が快適に保たれている背景には、市の管理とともに、私たちNPO法人「みどりのゆび」など市民の手による日々の活動があります。

私たちは、竹林や緑地の清掃・除草、また管理地周辺での枯れ木や倒木の情報提供などを通じて、自然環境の保全に取り組んでいます。こうした作業は一見地味に思えるかもしれませんが、地域の自然を守り、次世代へつなぐ大切な役割を果たしています。そして何より、仲間と共に緑の中で体を動かす時間は、心にも体にも心地よいものです。

今年は、楽しみにしていた春の「タケノコ祭り」が中止となりました。竹林管理の楽しみのひとつであるタケノコの収穫が不作だったためです。不作の理由には、昨夏の猛暑や少雨に加え、「裏年」と呼ばれる周期的な不作の年が重なったことが挙げられます。自然のリズムには逆らえませんが、だからこそ来年の豊作に期待しながら、日々の手入れを続けていきたいと思います。

また、樹木の管理においても課題がありました。昨年2月の大雪で倒れた竹林広場のシラカシに続き、今年は3月・5月・6月に、「関屋の切通し」周辺で倒木が発生し、道路の安全が脅かされる場面がありました。市の公園緑地課と道路課が連携して迅速に対応してくださいましたが、市民である私たちも、危険な木の兆候を見つけられるよう知識を身につけ、協力していくことが大切だと感じています。今後は、そうした知識を学べる機会づくりにも力を入れていきたいと考えています。

町田の自然は、多様な生き物が暮らし、植物が育ち、人々の心を癒してくれるかけがえのない財産です。この素晴らしさをより多くの方に知っていただきたく、今年11月16日（日）には緑地でのイベントを予定しています。日頃の活動を紹介しながら、自然の恵みを分かち合い、地域の皆さんとつながる機会になればと思っています。

皆さまのご参加を心よりお待ちしています.
一緒に町田の緑を守り、育てていきましょう。

（文：伊藤 右学）

竹林を快適空間に
裏作だからと諦めたタケノコは‥‥

3月23日（日）・4月13日（日）

まずはびこっていた竹林広場の草を刈り、ここに念願の丸太の輪切りの椅子を設置しました。高さがちょうど良く座り心地抜群。下の段の竹林への階段造りにも着手しました。これもかねてからの念願のものです。

それと並行して、2月の雪の為に倒されて、処理しきれないでいたシラカシや竹もチェーンソーやノコギリで切り片付ける事が出来ました。

今まで少しづつ手をかけて見映えのいい竹林になって来ていたのに、倒木の光景はショックでした。でも木が倒れた分、竹林はもっと明るくなりました。

傍では、モミジイチゴの若い枝がスクスク伸びています。実のなる頃が楽しみです。

タケノコは4月13日の生育調査では5本しか採れなくて、裏作だから仕方ないと諦めていましたが、翌週には、なんと30本近くの収穫がありました。この日、初めて参加の方にも喜んでもらえて嬉しかったです。これからの励みになります。

（文：鈴木 由美子）

タケノコ掘りに初参加

4月20日（土）

爽やかな春の陽気に恵まれ、新緑の竹林は清々しく、心身共に癒されました。

緑地管理にご尽力されている皆様方の企画実現の為の努力には、頭が下がる思いが致します。

4月20日の竹林には、タマノカンアオイ、アマドコロ、ニガイチゴ、カキドオシなどの野草、またサンショウの芽生えまで見られました。中でも、タマノカンアオイは絶滅危惧種だとか・・・・。

収穫したタケノコ
（写真：伊藤）

タマノカンアオイ
（写真：横山）

竹の根っこは、地下茎が横に広がり堅く、タケノコの周りの地面を掘る事は、私にはとても無理で急斜面を登るのがやっとの思いでした。
しかし、私と同年代の高齢者が、颯爽と斜面を登り降りする姿を拝見して、私も頑張らなくては、といった意欲が湧いてきました。
何事も経験だからトライしてみなさいとタケノコ掘りを指南してくださった方、また、斜面を登るのに棒を差し出して手助けをして下さった方など、心優しい方々に囲まれて、大変幸せな一日になりました。

（文：榎本 美智子）

凶作でタケノコ祭りは中止 来年の豊作を期待したい

4月27日（日）

３週連続のタケノコ掘りは、今回で事実上終わり。20本程度掘れたものの、全体に細く痩せており、シーズン末期の特徴を現しています。穂先刈りが出来るほど伸びていたのは、わずか２本だけでした。
タケノコは、年毎に概ね規則的な豊凶を繰り返しているようです。
今年は特に凶作であり、祭り行事も中止となりました。その分、来年は豊作が期待できると思います。
今日の天気は晴天で、午前中は気温も高くなく、極めて快適でした。木々の緑は日々濃くなりつつあり、里山の生命力をいただく思いがしました。
その後、有志７名はフットパスでも訪ねた鶴川香山園に移動。昨年12月開催した当会管理緑地と竹林を紹介したイベントの慰労会も兼ねて、「桜梅桃李」で和やかに昼食会を楽しみました。

（文：合田 英興）

夏に向かって大切な作業準備

5月11日（日）

5月にふさわしい青空の下、気持ちよく作業ができた。今回は緑地班と竹林班の二手に分かれて行なった。緑地班は布田道沿いの草を刈り、広い緑地の中に道を作るように刈払い機を使った。これで来月からの緑地管理がしやすくなる。
竹林班は穂先筍を切ったり密集している竹を間引いたりした。一段低い竹林への通路の端に穂先筍を見つけたが、こういう位置のものは通路の土を固めるためにも切らないほうが良いと教えてもらった。
通年募集中の 「みどりのボランティア」 に新しい会員の方が加わった。昨年12月の「里山再発見ツアー」に参加されたことがきっかけで、最近はフットパスにも参加されている。

（文：新納 清子）

今後の草刈りは、暑さと虫対策が必須と実感

6月1日（日）

昨日は雨が降っていましたが、今日は晴れ間が見える天気で一安心。最初に管理地全体をみんなで歩いて回り、緑地の状況を確認した後、今後の管理の計画を立てました。
今日の整備の中心は草刈りです。丈高くはびこったブタクサは、根っこから丁寧に刈り取りました。これにより、根元から再び出てくることがなくなります。刈り取った草は積み重ねておきました。
また刈払機を使い、布田道から見える草地を重点的に刈ることにしました。ここを歩く人が気持ちよく見えることを意図しています。
緑地の奥には小川があります。土が溜まったり、折れた木が水を堰き止めて草地に溢れていないかを確認するためにも、川沿いの草を刈払機で刈りました。
お昼に近づくと暑さが増し、蚊にさされたこともあって、次回からはしっかりと虫対策も必要だと感じました。

木陰から緑地をながめる

ニガイチゴも花をつけて
（写真:横山）

（文と写真：太田 義博）

よく管理された竹林（写真:横山）

NPO法人「みどりのゆび」2025年10月～2026年3月 フットパス・スケジュール

持ち物：弁当　水筒　雨具　**参加費**：1500円（会員割引 1000円）　**申込**：みどりのゆびHPまたは下記メール

★変更などがある場合も。必ず事務局に確かめてから お出かけください。　☎ 042-734-5678　080-5405-3904（神谷）

参加費を変更、また、申込開始日を設けました。よろしくお願いいたします。

●必ずお申し込みください。天候によって中止の場合もありますし、昼食の予約など保証できなくなります。
●申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、再度ご連絡ください。
ホームページ： http://www.midorinoyubi-footpath.jp/
メール：info-m@midorinoyubi-footpath.jp　　電話：042-734-5678　FAX：042-734-8954 携帯：080-5405-3904（神谷）

10月4日(土)

【集合】
JR八高線
「箱根ヶ崎」駅
改札口 前
9:40AM
（立川駅行き
9:59バスに
乗車します）

【昼食】
弁当持参

申込開始
８月30日(土)
から

申込締切
9月27日(土)
まで

『フットパス専門家講座：都立最大の都市公園、野山北・六道山公園を訪ねて』

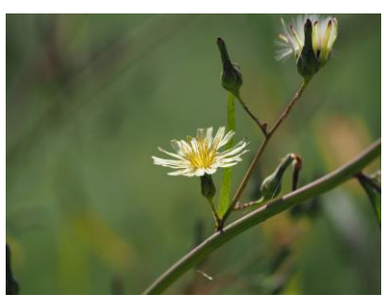
【講師：日本植物友の会会長　山田 隆彦：初秋の植物観察】

【内容】野山北・六道山公園は、狭山丘陵の一画にあり、自然豊かな所です。田園風景を楽しみながら、初秋の里山の植物を訪ねます。100種以上の草花や木々に出合えることでしょう。里山民家や岸田んぼといった貴重な里山の風景が広がる中、初秋の植物を楽しみます。
　ショウジョウソウ、ウメモドキ（実）、シロヨメナ、クサギ（実）、ミゾソバ、オケラ、ツリフネソウ、ナギナタコウジュ、カシワバハグマ、ノハラアザミ、コウヤボウキ、オトコヨウゾメ（実）などの植物に出合える予定です。

【コース】「箱根ヶ崎」駅→（バス）→「岸」バス停‥‥野山北・六道山公園内散策（昼食）‥‥「岸」バス停→（バス）→「箱根ヶ崎」駅 or「立川」駅　（解散：15:30頃）

ウメモドキ（実）

ツリフネソウ



アキノノゲシ

第1回 10月11日(土)　第2回 11月 8日(土)　第3回 12月 6日(土)

【集合】
場所は
各コース参照
10:00 集合
【昼食】
弁当持参

【申込】
各30名
（申込順）
開始
9月1日（月）
から
締切
各日程の7日前
までに, HPへ

特別企画『まちだフットパス・ガイドツアー』（広報まちだ 9月1日号にても募集実施）

まちだの小径を、ゆっくり歩く贅沢 ー 3コースを実施！（鶴川、小野路、小山田）

町田市には、雑木林や里山、古道や田畑など、首都圏とは思えない自然と歴史が色濃く残っています。この 秋、NPO法人みどりのゆびが、町田市と協働して制作した『まちだフットパスガイドマップ』を活用し、新しくアップデートしたコースを歩くガイドツアーです。案内役は、マップ制作に携わったベテランガイドたち。歩くことで見えてくる町田の新しい魅力。いつもの街が少し違って見えるかもしれません。

■ 第1回　10月11日（土）【集合場所】小田急線 鶴川駅前やすらぎ公園 (10:00)
【内容】鶴川駅周辺の古民家を始め、「鶴川台尾根緑地」や「真光寺公園」など里山と住宅地が調和する美しい風景を散策します。懐かしさと新しさが同居する町田の一面に出合えるコースです。

■ 第2回　11月8日（土）【集合場所】：真光寺公園バス停（10:00）
［内容］歴史ある「布田道」を歩き、「関屋の切り通し」や「小野路宿里山交流館」を巡ります。古道や宿場町の風情を感じながら、町田の歴史に触れることができるコースです。

■ 第3回　12月6日（土）【集合場所】：小野路宿里山交流館（10:00）
［内容］「小野神社」、「奈良ばい谷戸」、そして「都立小山田緑地」など、自然豊かな谷戸と杜の風景が楽しめるコースです。晩秋から初冬へと移ろう季節の中、静かな自然と向き合うひとときをお届けします。

【時間】各回 10:00~15:30
【定員】各回 30名（申込順）
【費用】各コース 1,200円（会員・非会員とも）
【申込み】各日程の7日前までに
NPO法人みどりのゆび下記HPより申込み
http://www.midorinoyubi-footpath.jp/
＊【問合せ】ＮＰＯ法人みどりのゆび
☎ 042-734-5678（受付時間＝午前10時～午後7時）

10月17日(金)
18日(土)
19日(日)

『他のまちのフットパスをみてみよう:北海道ニセコ町』

【講師：みどりのゆび＋日本フットパス協会：全国フットパスの集い2025年】

【内容】毎年恒例の日本フットパス協会の年大会です。今年は皆さんお待ちかねのニセコです。インバウンドも多く訪れる北海道の中でも人気の美しいまちです。
羊蹄山を初めとする雄大な自然、多様な効能の温泉群、秋の食の宝庫のご馳走と魅力てんこ盛りです。
　集いは18，19日の２日間ですが、東京からは二泊三日で17日から行きたいと思います。希望される方は早い予約ですと航空機+宿泊代（ツイン）で5万円ちょっとという価格で収まると思いますので、早めにご相談ください。予約は特別希望がない限り事務局で行います。参加希望の場合には事務局神谷までご連絡ください（080-5405-3904）。17日はレンタカーで、1日小樽や余市を巡りながらニセコに入りたいと思います。

【予定】18~19日(集いイベント)の暫定予定は以下の通り **(参加費、詳細はまだ未定)**

申込は事務局へご相談ください

【1日目】9:00~13:30 フットパスウォーキング
町内外3コース予定
① ウォーク&蘭越カヌーコース（鮭ウォッチング付）
ウォーク4km、カヌー4km
終了後、ランラン公園でニセコ産の新米おにぎりランチ付
②山コース(五色温泉~見返り坂~アンヌプリスキー場)
ウォーク6km
③ 曽我開拓歴史を想う路コース ウォーク7 km
14:30~15:30 情報提供シンポジウム「事例発表」
場所 町民センター
15:30~17:00 全道各地の情報提供
道内外各地域のフットパス自慢
17:30~19:30 交流会 町民センター・大ホール

【2日目】9:30~12:30 フットバスウォーキング
町内外3コース予定
① 文学歴史の散歩道 ウォーク7km
② 神仙沼コース ウォーク4km
③ 紅葉散策 鏡沼コース（アンヌプリ）ウォーク8km

11月14日(金)

『他のまちのフットパスをみてみよう：菊名から大倉山「まちづくりと建築」三昧』

【講師：みどりのゆび 浅黄 美彦】

【内容】東急の戦前の分譲住宅地「菊名錦ケ丘住宅地」,「菊名桜山公園（通称カーボン山）」,ギリシャ風の商店街「エルム通り」といったまちづくり事例と、長野 宇平次、村野 藤吾、妹島 和世・西沢 立衛、隈研吾・手島 貴晴・由比ら著名の建築家による建物を巡ります。

【集合】
東急東横線
「菊名」駅
改札口前
10：00AM

【コース】「菊名」駅集合 → 菊名錦ケ丘住宅地（ラウンドアバウト、眺望点のある戦前の住宅地）→ 東横線の踏切 → 菊名桜山公園（カーボン山 ）→ 「菊名ハイツ（田村 明が住んだマンション ）」→ 港北図書館（村野 藤吾の建築）→ 妹島 和世・西沢 立衛の集合住宅 → 大倉山エルム通り（ギリシャ風の商店街）→ 隈 研吾・手島 貴晴・由比が関わる寺院建築、幼稚園 → 「大倉山記念館（旧大倉山精神文化研究所）」→ 「大倉山」駅 （解散：１５時３０分頃）

【昼食】
現地にて

申込開始
10月10日(金)
から

申込締切
11月7日（金）
まで

大倉山の集合住宅
妹島 和世・西沢 立衛

勧成寺　隈 研吾

大倉山記念館　長野 宇平次

11月29日(土)

【集合】
JR「武蔵五日市」駅改札口前
10:00AM

【昼食】
レストラン予約

申込開始
10月25日(土)から

申込締切
11月22日(土)まで（ランチの希望含む）

『他のまちのフットパスをみてみよう：武蔵五日市駅周辺の歴史と自然～伊奈石石切場遺跡と貝化石』

【講師：みどりのゆび 小林 道正】

【内容】「伊奈石」とは、旧五日市町で産出する「凝灰質砂岩（ぎょうかいしつさがん）」が室町時代から江戸時代にかけて、石臼や石塔、墓石などに加工された石のことです。大規模な石切場の跡が遺されているので見学することが出来ます。凝灰質砂岩と聞いて「あぁ～チバニアン？上総層群の石かな！」と思われたかも知れませんね。千葉の石と実物を見て比較してみましょう。
　秋川の河原では「貝の化石」が見つかり、観察することができます。海の貝でしょうか？それとも淡水生の貝でしょうか？実物を観察してみませんか？

【コース】 JR「武蔵五日市」駅 → 秋川の河原で化石観察 → レストランでランチ → 伊奈石石切場遺跡見学 → JR 「武蔵五日市駅」（解散：16時頃）

JR武蔵五日市駅

鎌倉時代からの大悲願寺

伊奈石の五輪塔

12月13日(土)

【集合】
JR「鎌倉」駅東口 京急バス停⑤番 9時30分
（大塔宮行 9時40分発）

【昼食】
浄妙寺内「石窯ガーデンテラス」予約

申込開始
10月25日(金)から

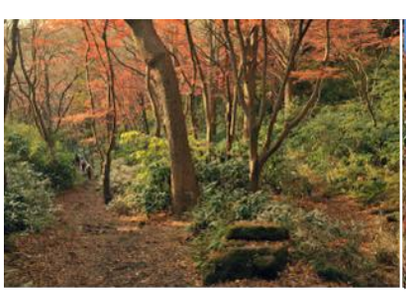
申込締切
12月6日(土)まで
ランチの席予約要

注）獅子舞谷は山道で、ぬかるんでいる所が多く、滑りやすいため歩きやすく、滑りにくい靴がおすすめ

『他のまちのフットパスをみてみよう：晩秋の奥鎌倉で、錦に染まる古都を歩く ～紅葉の美しい景観と歴史ある寺社の紅葉を心ゆくまで堪能する～』
【講師： みどりのゆび　田邊 博仁】

【内容】奥鎌倉とは、鎌倉市東側の二階堂・浄明寺・十二所の3つの地区を指し、北鎌倉や長谷、鎌倉駅付近に比べると観光で訪れる人は少ないですが、古くからの寺院が多いエリアです。
紅葉の時期には、モミジをもとめて多くの人が訪れます。温暖な鎌倉では、紅葉の時期は遅めで、12月第1～2週が見頃です。
「獅子舞谷（ししまいがやつ）」は鎌倉の山で見られる一番の紅葉の名所です。二階堂川源流の沢に沿って渓谷のような山道を登ると幻想的な紅葉の世界が広がります。「 瑞泉寺」は鎌倉でも最も遅い紅葉の名所です。山深い鎌倉二階堂紅葉ヶ谷の奥、境内、周囲の山々の鮮やかな紅葉が楽しめます。夢窓国師が手がけた国指定名勝の枯山水庭園と紅葉のコラボも楽しみます。「杉本寺」は鎌倉最古の寺、苔むした石段と紅葉を楽しみます。「浄妙寺」の紅葉は広い境内全体にあり、鎌倉紅葉散策の穴場です。境内の石窯ガーデ ンテラスでランチを、洋風の建物と色づいた木々、英国風の庭、和風の寺院とは違った趣を楽しみます。 竹の寺として有名な「報国寺」の紅葉は、青々とした竹林とのコントラストが魅力です。緑と赤と黄の鮮やかな対比を楽しみます。 そして「一条恵観山荘」は京都から移築した歴史ある山荘（国指定重要文化財）です。ここの紅葉は、数寄屋造りの建物と一体となった京都風の庭園美が特徴です。滑川と背後の山を背に歩く紅葉の小径、手水鉢とモミジの葉、人工的な水の流れ、苔庭の赤松とモミジなどをお楽しみください。

【コース】京急バス「鎌倉」駅→「大塔宮」→ 永福寺跡 → 獅子舞谷 → 瑞泉寺 → 護良親王墓 → 杉本寺 → 浄妙寺・石窯ガーデンテラス（ランチ） → 報国寺 → 一条恵観山荘 → 京急バス停「青砥橋」→ 「鎌倉」駅（ 解散；15時30分頃）


獅子舞谷の紅葉

石窯ガーデンテラス（ランチ）

一条恵観山荘の紅葉

3月24日(火) **【集合】** JR中央本線 「相模湖」駅 改札口前広場 10:30 AM **【昼食】** 弁当持参 **申込開始** **2月24日(火)** **から** **申込締切** **3月17日（火）** **まで**	**『フットパス専門家講座：早春の相模川・甲州古道を歩こう！小原宿と展望の道フットパス』** **【講師：古街道研究家　宮田 太郎】** **【内容】**甲州街道の本来の旧ルートは意外に知られていないもの。八王子から小仏峠を越えて相模湖が見える場所には、大名行列で本陣となった「小原宿本陣」があります。見学後には武田軍や中世武士団、参勤交代や国境警護の江戸時代の武士たちが実際に歩いた展望の古いルート「甲州古道」をたどってみましょう。 **【コース】**JR中央本線「相模湖」駅改札口前広場 → 10:54発の路線バスで「小原」バス停 → 小原宿本陣 → 小原の郷（各自弁当昼食）→ 甲州古道（「八幡神社」、「観音堂」）→「旧甲州街道」→「相模湖」駅。　行程約5.5ｋｍ。（解散：15時30分頃） ※天候その他の条件により、コースが若干変わる場合があります。 相模湖の古甲州街道より見た風景

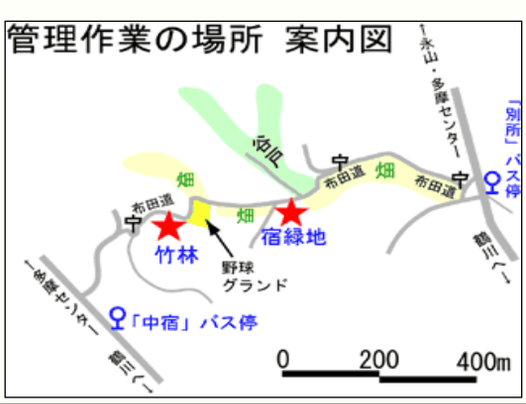
「鎌倉街道小野路宿緑地：管理スケジュール　2025年9月～2026年3月

緑豊かで様々な生物が暮らし、植物が育つこの自然を一緒に守りませんか？
毎月１回、ここ布田道沿いの緑地や竹林で、私たちは草刈や整備をしています。
もしご興味がおありでしたら、一度是非ご参加ください。

2026年3月までの活動予定

9/7(日)　緑地整備
10/19(日)　緑地整備
11/16(日)　宿緑地再発見ツアー（右案内参照）
12/14(日)　竹林整備
2026年
1/18(日)　竹林整備
2 /15(日)　竹林整備
3/15(日)　竹林整備

＊集合時間：9/7 まで9:30, 10/19 から10:00
＊集合場所：緑地倉庫前
＊**雨天の場合は翌週に順延、事務局に実施の確認をお願いします。**



「NPO法人みどりのゆび」
鎌倉街道小野路宿緑地　再発見ツアー第3弾

日時	2025年11月16日 日曜日　午前10時～午後3時（雨天中止）
場所	町田市小野路周辺　布田道、関屋の切り通し、鎌倉古道、一本杉公園など
集合	午前10時　　解散　午後3時（共に当会管理緑地倉庫前）
内容	○緑地、竹林周辺の里山散策（鎌倉古道を歩く） ○一本杉公園の古民家で昼食（囲炉裏端でくつろぐ） ○緑地にて季節の実りを試食（自然を満喫する）
参加費	実費５００円 昼食は、弁当持参または交流館の里山弁当手配（希望者）
持ち物	飲み物 雨具 軍手 履き慣れた運動靴でお越しください

多摩丘陵の里山が色づき始める頃、豊かな自然が残る管理地周辺を散策します。緑地広場から里山の小径を北上して、一本杉公園の古民家を訪ね、囲炉裏でお茶を沸かして、昼食を取ります。午後は古街道を下り、江戸時代に脇往還として使われた布田道に入り、関屋の切通しを通って、管理地竹林を訪ねます。その後、緑地に戻って、3時のお茶を楽しんで解散となります。

【イベント申込】
NPO法人
みどりのゆびHP
イベント申込　より
申込開始　10/6～
申込締切　～11/9

【問い合わせ】
メール：info-m@midorinoyubi-footpath.jp
連絡先：090-9954-1250
みどりのゆび事務局　伊藤

NPO法人みどりのゆび　ホームページのご紹介

ウェブ検索にて「NPO法人みどりのゆび」と挿入すると、右記のホームページが開きます。

上部の各項目の▼をクリックしますと、さらに、各種のご案内が開きます。

●「イベント」では各種イベントスケジュール、カレンダーおよびイベント申込みが開きます。

●「活動の記録」では会報、活動レポートが開きます。

●「みどりのゆび概要」では、会のご紹介、沿革、入会申し込みなどが開きます。

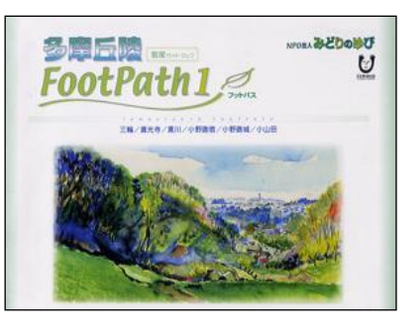
●「お知らせ」では、新着情報、掲示板が開きます。掲示板では、みなさまの投稿が可能です。
ご活用ください。

フットパスガイドマップ 4冊（改訂版発行）

町田市地域には、フットパスにふさわしい昔ながらの里山風景、雑木林、田畑、古街道など、歴史の面影が随所に残されています。

魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発してフットパスガイドマップとし、『多摩丘陵FootPath1』¥500+税、『多摩丘陵FootPath 2 』¥500+税、『まちだフットパスガイドマップ』¥880+税、『まちだフットパスガイドマップ２』¥770+税　の4冊を刊行しています。

市内の書店・久美堂（原町田本店、四丁目店、本町田店）と啓文堂（鶴川店）、町田ツーリストギャラリー、小野路宿里山交流館でのご購入、または、下記のみどりのゆび事務局へお申し込みください。



～ 編集後記 ～

来期の「フットパス・スケジュール」が出揃った。居並ぶ目新しい企画には、それぞれ提案者の意気込みが感じられて期待が高まる。その中で、特別企画『まちだフットパスガイドツアー』はみどりのゆびの原点となったコースのうちの３回シリーズ。知ったつもりのエリアを改めて歩き直す機会は、インバウンドの外国人にも通じる新鮮な価値観の発見をもたらすに違いない。奮ってご参加を。　（横山 禎子）

春のイベント参加者は延べ110名（14名/回），会員は72名。マップ販売数が減少。今回から参加費を値上げ、会員には参加費の割引特典有。是非、会員登録をお願いいたします。
秋号も、新しい企画（広報まちだ掲載）に取り組み、参加者増、会員数増、マップ販売増を目指します。
目と口と頭を使って歩くフットパスの魅力をみなさまと共に楽しみましょう。情報の拡散、参加者増を。（田邊 博仁）

NPO法人「みどりのゆび」
・事務局　：Tel 042-734-5678　Fax 042-734-8954　Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp
・ホームページ　：http://www.midorinoyubi-footpath.jp/
・Facebook　：https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath